

1. 授業名 (講義・実習)	医療コミュニケーション	平成20年度 後期	必修・選択	時間数	開講年次	
	ン (講義・演習)	木曜 3時限	必修	30 時間	3年	
2. 担当教員	<p>寺下正道 (総合診療学分野)</p> <p>大住伴子 (口腔応用薬理学分野)</p> <p>木尾哲朗、曾我部浩一、永松浩、農蘇千絵、西野宇信 (総合診療学分野)</p> <p>井ノ森巳賀子、佐伯桂、曾我部公秀 (附属病院)</p> <p>非常勤講師：俣木志朗 (東京医科歯科大学歯学部)</p> <p>藤崎和彦 (岐阜大学医学部医学教育開発センター)</p> <p>吉田登志子 (岡山大学歯学部), 前田純子 (岡山 SP 研究会)</p>					
3. 授業の概要	<p>良好な歯科医師-患者関係を築くのに必要なコミュニケーション能力の基礎を身につける。そのために、基本的なコミュニケーションスキルを医療コミュニケーションに活用できるような基本的態度を学ぶ。</p> <p>科目は講義と演習からなり、講義では医療面接・説明に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。演習は30人程度の3グループに分けて行う。2人または3人が一組となつてのロールプレイや模擬患者の活用を行い、自分のもつコミュニケーションスキルを向上し、気づきの姿勢を育成する。</p>					
4. 学生の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科医師の義務と責任に関する基本的な知識, 態度および考え方を身につける; A-3 ~</li> <li>2. 患者本位の医療を実践するため, 適切な説明を行った上で, 患者の主体的な同意を得るために必要な対話能力と態度および考え方を身につける; A-4 ~</li> <li>3. 信頼関係を確立するために, コミュニケーションの重要性を理解し, その能力を身につける; B-2-1)- ,</li> <li>4. 良好な患者-歯科医師関係を築くために必要な医療面接の基本的な態度, 知識および技能を身につける; B-2-2)- ~</li> <li>5. グループ討論の中で, 良好な対人関係を養う.</li> </ol>					
5. 授業方法及び内容(計画)事前・事後学習の指示	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	コアカリ項目
	1	医療コミュニケーション概論 医師患者関係 性格検査・社会スキル検査	講義 スライド 検査用紙	授業概要	木尾 (概略説明) 大住 (ファシリテータ)	B-2-1)- ,
	2	伝達と傾聴の演習 (1班) 言語・非言語メッセージ	小グループ演習 (30名) ロールプレイ レポート提出	話すこと、 聴くこと	木尾 (説明) 大住 (ファシリテータ)	B-2-1)- ,

3	伝達と傾聴の演習(2班) 言語・非言語メッセージ	小グループ演習(30名) ロールプレイ レポート提出	話すこと、 聴くこと	木尾(説明) 大住(ファシリテータ)	B-2-1)- 、
4	伝達と傾聴の演習(3班) 言語・非言語メッセージ	小グループ演習(30名) ロールプレイ レポート提出	話すこと、 聴くこと	木尾(説明) 大住(ファシリテータ)	B-2-1)- 、
5	「伝達と傾聴の演習」の振り返りとまとめ 医療面接概論(態度と技法)	講義 スライド プリント	コミュニケーションスキル	木尾(説明) 大住(ファシリテータ)	A-3 ~
6	医療面接とフィードバック	講義 スライド プリント	医療面接と 問診	藤崎	B-2-2)- ~
7	医療面接に関する情報収集 ロールプレイのためのシナリオと評価シートの作成	演習 スライド プリント	医療面接と 問診	大住(説明) 木尾(ファシリテータ)	B-2-2)- ~
8	医療面接演習(1) ロールプレイ	小グループ演習 レポート提出	患者・歯科 医師・評価 者を体験する	木尾(説明) 大住・曾我部・永松・ 農蘇・西野・佐伯・ 井ノ森・曾我部(ファシリテータ)	A-3 ~ B-2-2)- ~
9	医療面接演習(2) ロールプレイ	小グループ演習 レポート提出	患者・歯科 医師・評価 者を体験する	木尾(説明) 大住・曾我部・永松・ 農蘇・西野・佐伯・ 井ノ森・曾我部(ファシリテータ)	A-3 ~ B-2-2)- ~
10	医療面接ロールプレイの振り返りとまとめ	講義 スライド プリント		木尾(説明) 大住(ファシリテータ)	A-3 ~ B-2-2)- ~
11	非言語コミュニケーション と説明指導	講義 スライド プリント	伝えるスキル	俣木	A-3 ~ B-2-2)- ~

	12	非常勤講師による医療面接 (1) 模擬患者を活用した演習	グループ演習 レポート提出	模擬患者と のセッションを体験する	吉田・前田(説明) 曾我部・永松・ 大住・木尾・農蘇・ 西野・井ノ森・曾我 部(ファシリテータ)	B-2-2)- ~
	13	非常勤講師による医療面接 (2) 模擬患者を活用した演習	グループ演習 レポート提出	模擬患者と のセッションを体験する	吉田・前田(説明) 曾我部・永松・ 大住・木尾・農蘇・ 西野・井ノ森・曾我 部(ファシリテータ)	B-2-2)- ~
	14	「模擬患者を活用した演習」 の振り返りとまとめ 医療面接技法1 承認するスキル, 質問する スキル	講義 スライド		木尾(説明) 大住(ファシリテ ータ)	A-4- ~
	15	医療面接技法2 伝えるスキル 医療コミュニケーションま とめ 社会スキル検査	講義 プリント スライド		木尾(説明) 大住(ファシリテ ータ)	B-2-2)- ,
6. テキスト 参考文献等	はじめての医療面接 コミュニケーション技法とその学び方: 齋藤清二, 医学書院 メディカル・サポート・コーチング入門 医療者向けコミュニケーション法: 奥田弘美, 本 山雅英, 日本医療情報センター メディカル・ケアスタッフのためのコーチング 25 のコツ: 奥田弘美, 厚生科学研究所, 2006					
7. 成績評価方法・ 基準	出欠状況と科目試験を各 30 点, 演習参加態度と演習レポート内容を各 20 点とする。 60 点以上を合格とする。					
8. 出欠の取扱	基本的には講義開始時間までを出席とし、講義開始後 20 分までを遅刻として取り扱う。 変更があれば講義の初日に通達する。					
9. 学習相談助言 体制(連絡先)	相談は授業時間外でも随時受け付ける。メールにて時間の予約をとること。 木尾哲朗(総合診療学分野) E-mail: tetsuro@kyu-dent.ac.jp 大住伴子(口腔応用薬理学分野) E-mail: t-ohsumi@kyu-dent.ac.jp					
10. 授業改革の試 み	本科目は平成 17 年度より新設された科目である。毎年検証を行い、内容を更新している。					

1. 授業名 ( 講義・実習 )	感染と免疫 ( 実習 )		平成20年度 後期	必修・選択	時間数	開講 年次
			火 曜 1, 2時限	必須	30	3年
2. 担当教員	<p>コースディレクター：西原達次  ファシリテーター：井上博雅，粟野秀慈，東 泉  チューター：辻澤利行，安細敏弘，鬼木隆幸，鯨良夫，邵仁浩，陳克恭，富永和宏，中村恵子，松尾拓，吉野賢一，甲斐絢，河原博，鍵山俊太郎，荒井秋晴，有吉渉，大住伴子，古賀裕紀子，中道郁三，西岡孝浩，園木一男，有田正博  ティーチングアシスタント：倉田洋史，峰岡哲朗，茂山千恵子，高橋優介</p>					
3. 授業の概要	<p>全身の健康を脅かす病気として感染症が存在している。この疾患の発症メカニズムを感染と免疫の両面から教える。その上で、歯科における2大疾患である齲蝕と歯周病が細菌感染症であることを教える。この授業では、講義と実習を区別せず、講義・実習を相互に行う。さらに、テュートリアル学習を教育手法として用いて、「感染と免疫」の知識を深めることを目指す。この授業で得た知識は、将来歯科医師としての医療行為を行っていくうえで、必要不可欠なものである。</p> <p>「感染と免疫3」と「感染と免疫4」は、テュートリアル学習で、学生自身が自己学習することで「感染と免疫1」および「感染と免疫2」で得た知識の理解度を深めることを目的とする。</p>					
4. 学生の到達目標	<p>「情報を自ら収集、分析して問題点を探し出すことができる。B-1-1) 」  「問題点を論理的に整理し、解決方法を自ら見出すことができる。B-1-1) 」  「必要に応じて他の学習者や教員と協力して、最適な解決方法を見出すことができる。B-1-1) 」  「教科書、論文などを読んで、重要事項や問題点を抽出して文章または口頭でわかりやすく説明できる。B-1-2) 」  「授業講演等の内容について、その中心課題の内容と問題点を抽出して文章または口頭でわかりやすく表現し、自分の考えを説明できる。B-1-2) 」  「実験実習の成果を文章または図表に表すことができ、また口頭で発表できる。B-1-2) 」  「歯科治療に関する科学的根拠を説明できる。B-1-2) 」  「細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特長と生理学的性状を説明できる。D-3-1) 」  「細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染成立の機序とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。D-3-1) 」  「清潔と不潔の区別および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。D-3-1) 」  「化学療法目的、原理および作用機序を説明できる。D-3-1) 」  「自然免疫と獲得免疫について説明できる。D-3-2) 」  「細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。D-3-2) 」  「免疫担当細胞の種類と働きを説明できる。D-3-2) 」  「免疫寛容を説明できる。D-3-2) 」  「アレルギーの分類を説明できる。D-3-2) 」  「免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。D-3-2) 」  「ワクチンの意義と問題点を説明できる。D-3-2) 」  「歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。F-2-4)(2) 」  「菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。F-2-4)(2) 」  「歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。F-3-2) 」  「歯周疾患の病因と病態を説明できる。F-3-2) 」  「口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。F-3-2) 」</p>					
5. 授業方法及び 内容(計画) 事前・事後 学習の指示	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	コアカリ項目
	1	テュートリアル説明会	講義	微生物の分類，微生物学と他分野との関係	西原	D-3-1)
	2	課題1：テュートリアル学習1	講義	細菌の形，大きさ，染色性，共通構造と特殊構造，化学的組成	井上	D-3-1)

	3	課題 1 : テュートリアル学習 1	講義	細菌の増殖に必要な物理的また化学的条件, 増殖, 代謝, 物質輸送	井上	D-3-1)
	4	課題 1 : テュートリアル学習 2	講義	ウイルスの種類, 構造, 増殖, 真菌の特徴, 形態, 構造	辻澤	D-3-1)
	5	課題 1 : テュートリアル学習 2	講義	感染, 汚染, 伝染の定義, 宿主と寄生体の相互関係, 常在細菌叢	西原	D-3-1)
	6	課題 1 : テュートリアル学習 3	講義	内因感染と外因感染, 感染経路 (水平感染と垂直感染)	西原	D-3-1)
	7	課題 1 : テュートリアル学習 3	実習		西原 井上 辻澤	D-3-1) B-1-2)
	8	課題 2 : テュートリアル学習 1	実習		西原 井上 辻澤	D-3-1) B-1-2)
	9	課題 2 : テュートリアル学習 1	講義	病原体の病原因子と感染防御について	西原	D-3-1)
	10	課題 2 : テュートリアル学習 2	講義	滅菌と消毒の定義, 物理的滅菌の条件, 消毒薬の作用機序	辻澤	D-3-1)
	11	課題 2 : テュートリアル学習 2	講義	化学療法薬の作用機序とその耐性機序	辻澤	D-3-1)
	12	課題 2 : テュートリアル学習 3	講義	化膿性疾患, 食中毒	西原	D-3-1)
	13	課題 2 : テュートリアル学習 3	講義	ヘルペスウイルス, ムンプスウイルスなど	辻澤	D-3-1)
	14	チュートリアル学習総括 1	講義	肝炎ウイルス, ヒト免疫不全ウイルス, 真菌学各論, マラリアなど	辻澤	D-3-1)
	15	定期試験	筆記試験		西原, 井上, 辻澤	
6. テキスト 参考文献等	チュートリアル学習の当日にシナリオを配布する。 シナリオからキーワードを抽出し, 図書館やインターネットなどを使って調べるため, 教科書や参考書などは特に指定しない。					
7. 成績評価 方法・基準	共用試験 CBT 形式あるいは国家試験形式の問題および記述式の問題のいずれかまたは両方の形式で出題する。60 点以上者のを合格とする。					
8. 出欠の取 扱	チューターが出欠を確認する。開始 10 分 (9 時) までは出席とするが, それ以降は, 遅刻とする。また, チュートリアル学習のコアタイムに出席しなかったものは欠席扱いとする。原則として欠席は認めない。ただし, やむ終えない場合は, チュートリアル開始前までに必ず連絡すること。					
9. 学習相談 助言体制 (連絡先)	西原 達次 月~金曜日、随時受け付ける。 内線 8111、 <a href="mailto:tatsujin@kyu-dent.ac.jp">tatsujin@kyu-dent.ac.jp</a> 井上 博雅 月~金曜日、随時受け付ける。 内線 8112、 <a href="mailto:hiro-ino@kyu-dent.ac.jp">hiro-ino@kyu-dent.ac.jp</a> 辻澤 利行 月~金曜日、随時受け付ける。 内線 8113、 <a href="mailto:t-toshi@kyu-dent.ac.jp">t-toshi@kyu-dent.ac.jp</a>					

10.授業改革の試み	平成17年度から導入したテュートリアル教育は、本学においては先駆的な取り組みである。したがって、今後、毎年検証を加えていくつもりである。 テュートリアル学習の終了時に行う学生や教員に対するアンケートを基に、健康増進学講座内で会議を開き、シナリオの内容を毎年改善している。					
1.授業名 (講義・実習)	感染と免疫 (実習)		平成20年度 後期	必修・選択	時間数	年次
			火 曜 1,2時限	必須	30	3年
2.担当教員	<p>コースディレクター：西原達次  ファシリテーター：井上博雅，栗野秀慈，東 泉  チューター：辻澤利行，安細敏弘，鬼木隆幸，鯨良夫，邵仁浩，陳克恭，富永和宏，中村恵子，松尾拓，吉野賢一，甲斐絢，河原博，鍵山俊太郎，荒井秋晴，有吉渉，大住伴子，古賀裕紀子，中道郁三，西岡孝浩，園木一男，有田正博  ティーチングアシスタント：倉田洋史，峰岡哲朗，茂山千恵子，高橋優介</p>					
3.授業の概要	<p>全身の健康を脅かす病気として感染症が存在している。この疾患の発症メカニズムを感染と免疫の両面から教える。その上で、歯科における2大疾患である齲蝕と歯周病が細菌感染症であることを教える。この授業では、講義と実習を区別せず、講義・実習を相互に行う。さらに、テュートリアル学習を教育手法として用いて、「感染と免疫」の知識を深めることを目指す。この授業で得た知識は、将来歯科医師としての医療行為を行っていくうえで、必要不可欠なものである。  「感染と免疫3」と「感染と免疫4」は、テュートリアル学習で、学生自身が自己学習することで「感染と免疫1」および「感染と免疫2」で得た知識の理解度を深めることを目的とする。</p>					
4.学生の到達目標	<p>「情報を自ら収集、分析して問題点を探し出すことができる。B-1-1) 」  「問題点を論理的に整理し、解決方法を自ら見出すことができる。B-1-1) 」  「必要に応じて他の学習者や教員と協力して、最適な解決方法を見出すことができる。B-1-1) 」  「教科書、論文などを読んで、重要事項や問題点を抽出して文章または口頭でわかりやすく説明できる。B-1-2) 」  「授業講演等の内容について、その中心課題の内容と問題点を抽出して文章または口頭でわかりやすく表現し、自分の考えを説明できる。B-1-2) 」  「実験実習の成果を文章または図表に表すことができ、また口頭で発表できる。B-1-2) 」  「歯科治療に関する科学的根拠を説明できる。B-1-2) 」  「細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特長と生理学的性状を説明できる。D-3-1) 」  「細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染成立の機序とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。D-3-1) 」  「清潔と不潔の区別および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。D-3-1) 」  「化学療法目的、原理および作用機序を説明できる。D-3-1) 」  「自然免疫と獲得免疫について説明できる。D-3-2) 」  「細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。D-3-2) 」  「免疫担当細胞の種類と働きを説明できる。D-3-2) 」  「免疫寛容を説明できる。D-3-2) 」  「アレルギーの分類を説明できる。D-3-2) 」  「免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。D-3-2) 」  「ワクチンの意義と問題点を説明できる。D-3-2) 」  「歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。F-2-4)(2) 」  「菌血症および歯性病巣感染の病態を説明できる。F-2-4)(2) 」  「歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明できる。F-3-2) 」  「歯周疾患の病因と病態を説明できる。F-3-2) 」  「口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。F-3-2) 」</p>					
5.授業方法及び	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	コアカリ項目

内容(計画) 事前・事後 学習の指示	1	テュートリアル説明会	講義	免疫現象の特徴と種類(自然免疫と獲得免疫), 免疫担当細胞	井上	D-3-2)
	2	課題3: テュートリアル学習1	講義	抗体の基本性質, 抗体の機能, 抗原提示	井上	D-3-2)
	3	課題3: テュートリアル学習1	講義	T細胞とT細胞障害, 移植免疫	井上	D-3-2)
	4	課題3: テュートリアル学習2	講義	アレルギーと自己免疫病, 免疫寛容	井上	D-3-2)
	5	課題3: テュートリアル学習2	実習		西原 井上 辻澤	D-3-1) B-1-2)
	6	課題3: テュートリアル学習3	実習		西原 井上 辻澤	D-3-1) B-1-2)
	7	課題3: テュートリアル学習3	実習		西原 井上 辻澤	D-3-1) B-1-2)
	8	課題4: テュートリアル学習1	実習		西原 井上 辻澤	D-3-1)
	9	課題4: テュートリアル学習1	講義	口腔常在細菌の分類と組成の特徴, 口腔細菌の個別の特徴, プラークの病因論的意義	西原	F-3-2)
	10	課題4: テュートリアル学習2	講義	唾液をはじめとする抗菌作用について	西原	D-3-2)
	11	課題4: テュートリアル学習2	講義	ワクチンの種類, 唾液 IgA による感染防御, 粘膜免疫に関する器官	井上	D-3-2)
	12	課題4: テュートリアル学習3	講義	齲蝕の病態, 齲蝕と細菌, mutans streptococci のビルレンス因子, 齲蝕に関わる宿主因子	辻澤	F-3-2) D-3-1)
	13	課題4: テュートリアル学習3	講義	歯周病の病態, 歯周病と細菌, 歯周病源細菌の病原因子, 歯周病源細菌と宿主応答	西原	F-3-2) D-3-1) D-3-2)
	14	テュートリアル学習総括2	講義	口腔領域の感染症全般, 口腔全身感染症との関わりについて	西原	F-3-4)(2)
	15	定期試験	筆記試験		西原, 井上, 辻澤	
6. テキスト 参考文献等	テュートリアル学習の当日にシナリオを配布する。 シナリオからキーワードを抽出し, 図書館やインターネットなどを使って調べるため, 教科書や参考書などは特に指定しない					
7. 成績評価 方法・基準	共用試験 CBT 形式あるいは国家試験形式の問題および記述式の問題のいずれかまたは両方の形式で出題する。60点以上の者を合格とする。					
8. 出欠の取 扱	テューターが出欠を確認する。開始10分(9時)までは出席とするが, それ以降は, 遅刻とする。また, テュートリアル学習のコアタイムに出席しなかったものは欠席扱いとする。原則として欠席は認めない。ただし, やむ終えない場合は, テュートリアル開始前までに必ず連絡すること。					

9. 学習相談 助言体制)	西原 達次 月～金曜日、随時受け付ける。 内線 8111、 <a href="mailto:tatsujin@kyu-dent.ac.jp">tatsujin@kyu-dent.ac.jp</a> 井上 博雅 月～金曜日、随時受け付ける。 内線 8112、 <a href="mailto:hiro-ino@kyu-dent.ac.jp">hiro-ino@kyu-dent.ac.jp</a> 辻澤 利行 月～金曜日、随時受け付ける。 内線 8113、 <a href="mailto:t-toshi@kyu-dent.ac.jp">t-toshi@kyu-dent.ac.jp</a>					
10. 授業改革 の試み	平成 17 年度から導入したテュートリアル教育は、本学においては先駆的な取り組みである。 したがって、今後、毎年検証を加えていくつもりである。 テュートリアル学習の終了時に行う学生や教員に対するアンケートを基に、健康増進学講座内で 会議を開き、シナリオの内容を毎年改善している。					
1. 授業名 (講義・実 習)	薬理学・歯科薬理学 (講義)	平成20年度 後期	必修・選択	時間数	開講年 次	
		水曜 1 時限	必須	30	3年	
2. 担当教員	大住 伴子、東 泉、古賀裕紀子					
3. 授業の概 要	薬理学は、薬物と生体がどのように作用しあうかを研究する学問であり、この中の歯科で使用される薬物を対象とする学問が歯科薬理学である。薬理学は基礎医学分野の学問であるが、臨床医学分野とも密接な関係を持つ。 授業内容は薬理学、歯科薬理学および薬剤学から成り、基本的事項以外にも、臨床上的具体例、薬物療法の現状、新薬開発状況などを取り入れて行う。 薬理学・歯科薬理学 では、医薬品を投与する立場である歯科医師として必須の薬理学総論および末梢神経系の講義を行う。					
4. 学生の到達目標	高齢社会の現在、歯科治療を行う患者の多くは疾患を有し、多くの薬物を使用している。歯学における薬理学教育もこのような状況を考慮して行う。 薬理学・歯科薬理学 では、将来歯科医師として臨床に携わる時、薬物を患者に有効かつ安全に投与するために必要な基本的事項を学ぶ。さらに末梢神経系について学ぶ。 1. 医薬品の分類を説明できる：D-5-1)- 2. 毒薬、劇薬および麻薬等の表示と保管を説明できる：D-5-1)- 3. 日本薬局方を説明できる：D-5-1)- 4. 薬物療法（原因療法、対症療法）を説明できる：D-5-2)- 5. 薬理作用の基本形式と分類を説明できる：D-5-2)- 6. 薬物の作用機序説明できる：D-5-2)- 7. 薬理作用を規定する要因（用量と反応、感受性）を説明できる：D-5-2)- 8. 薬物の連用の影響（薬物耐性、蓄積および薬物依存）を説明できる：D-5-2)- 9. 薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる：D-5-2)- 10. 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる：D-5-3)- 11. 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる：D-5-3)- 薬物の一般的副作用、有害作用と口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる：D-5-4)- 12. 末梢神経系作用薬の分類とその作用機序が説明できる：D-2-3)-(5)-、D-5-2)-、F-1-3)-(3)-、F-1-3)-(3)-、F-1-3)-(4)- 13. 平滑筋作用薬の分類とその作用機序が説明できる：D-5-2)-					
5. 授業方法及び 内容(計画) 事前・ 事後学習の 指示	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	コアカリ項目
	1	薬理学概論	実習		西原 ファシリ テーター、 井上、 辻澤	
	2	医薬品と関連法規	実習		テュータ	B-1-1) ～

	3	薬物適用と薬物動態	実習		テュータ	B-1-1) ~
	4	薬物適用と薬物動態	実習		テュータ	B-1-1) ~
	5	薬物適用と薬物動態	実習		テュータ	B-1-1) ~
	6	薬理作用と作用機序	実習		テュータ	B-1-1) ~
	7	薬理作用と作用機序	実習		テュータ	B-1-1) ~
	8	薬理作用を規定する要因	実習		テュータ	B-1-1) ~
	9	有害作用・副作用	実習		テュータ	B-1-1) ~
	10	医薬品の開発	実習		テュータ	B-1-1) ~
	11	末梢神経系作用薬	実習		テュータ	B-1-1) ~
	12	末梢神経系作用薬	実習		テュータ	B-1-1) ~
	13	末梢神経系作用薬	実習		テュータ	B-1-1) ~
	14	平滑筋作用薬	実習		テュータ	B-1-1) ~
	15	試験	筆記試験		西原、井上、辻澤	
6. テキスト 参考文献等	<p>教科書：現代歯科薬理学 第4版、医歯薬出版          参考書：Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics 11<sup>th</sup> edition          グッドマン・ギルマン薬理書 第10版、広川書店          NEW 薬理学 改訂第5版、南江堂          歯科薬理学 第5版、医歯薬出版          病態生理に基づく臨床薬理学、メディカル・サイエンス・インターナショナル          プリント：必要に応じて配布</p>					
7. 成績評価 方法・基準	<p>方法：試験の成績で評価する。          基準：100点満点で60点以上を合格とする。</p>					
8. 出欠の取 扱	<p>授業開始後30分までを出席とする。それ以降は欠席扱いとする。</p>					
9. 学習相談 助言体制 (連絡先)	<p>授業終了後、または各教員のスチューデントアワーに研究室にて行う。          連絡先：          大住：<a href="mailto:t-ohsumi@kyu-dent.ac.jp">t-ohsumi@kyu-dent.ac.jp</a>、東：<a href="mailto:sen@kyu-dent.ac.jp">sen@kyu-dent.ac.jp</a>、古賀：<a href="mailto:y-koga@kyu-dent.ac.jp">y-koga@kyu-dent.ac.jp</a></p>					

10. 授業改革の試み	薬理学総論および多くの薬物の作用機序の基礎となる自律神経系作用薬における基本的事項を確実に理解させ、CBTでの高得点を目指す。国家試験の必須問題に対応できる学力を養う。
-------------	--

1. 授業名 (講義・実習)	病理学 実習	平成20年度 後期 木曜 2時限	必修・選択 必修	時間数 24	開講年次 3年	
2. 担当教員	教授 福山 宏、 准教授 松尾 拓、 助教 張 皿					
3. 授業の概要	全身諸臓器に発生した各種病変の病理組織標本を顕微鏡観察し、スケッチする作業を通して、それぞれの病変の本質を組織・細胞レベルで把握する。					
4. 学生の到達目標	<p style="text-align: right;">(&lt; &gt;はコアカリ対応)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞障害と組織障害の原因を列挙し、実例を挙げて説明できる。 &lt;D-4-1)-①&gt;</li> <li>2. 壊死の多様性、病因、意義及び形態的所見の特徴を説明できる。 &lt;D-4-1)-②&gt;</li> <li>3. 化生を説明できる。 &lt;D-4-2)-②&gt;</li> <li>4. 創傷治癒に関与する細胞とその過程を説明できる。 &lt;D-4-2)-③&gt;</li> <li>5. 肉芽組織、器質化の意義とその転帰を説明できる。 &lt;D-4-2)-④&gt;</li> <li>6. 虚血、充血及びうっ血の徴候、原因及び転帰を説明できる。 &lt;D-4-3)-①&gt;</li> <li>7. 出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 &lt;D-4-3)-②&gt;</li> <li>8. 血栓症の形態学、成因と条件及び転帰を説明できる。 &lt;D-4-3)-③&gt;</li> <li>9. 梗塞の種類、形態及び転帰を説明できる。 &lt;D-4-3)-⑤&gt;</li> <li>10. 炎症細胞の種類と働きを説明できる。 &lt;D-4-4)-②&gt;</li> <li>11. 炎症の分類、病理組織学的変化及び経時的変化を説明できる。 &lt;D-4-4)-③&gt;</li> <li>12. 炎症の原因別分類と病因特異性組織変化を説明できる。 &lt;D-4-4)-④&gt;</li> <li>13. 腫瘍の組織発生を説明できる。 &lt;D-4-5)-②&gt;</li> <li>14. 異形成、退形成及び分化を説明できる。 &lt;D-4-5)-④&gt;</li> <li>15. 腫瘍の異型性と多形性を説明できる。 &lt;D-4-5)-⑤&gt;</li> <li>16. 局所における腫瘍の増殖、浸潤及び転移を説明できる。 &lt;D-4-5)-⑥&gt;</li> </ol>					
5. 授業方法及び 内容(計画)事前・	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	コアカリ項目

事後学習の指示	1	<b>退行性病変（変性）（I）：</b> 各種変性の組織像を観察し、病変の細胞レベルでの理解を深める。	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習（事前学習）と 関連レポート（事後学習）	福山 松尾 張	D-4-1)-① D-4-1)-②
	2	<b>退行性病変（変性）（II）：</b>  同上（続き）	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習（事前学習）と 関連レポート（事後学習）	福山 松尾 張	D-4-1)-① D-4-1)-②
	3	<b>循環障害（I）：</b> 各種循環障害の組織像を観察し、病変の細胞レベルでの理解を深める。	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習（事前学習）と 関連レポート（事後学習）	福山 松尾 張	D-4-3)-① D-4-3)-② D-4-3)-③ D-4-3)-⑤
	4	<b>循環障害（II）：</b>  同上（続き）	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習（事前学習）と 関連レポート（事後学習）	福山 松尾 張	D-4-3)-① D-4-3)-② D-4-3)-③ D-4-3)-⑤
	5	<b>進行性病変（I）：</b> 再生、異物処理、肉芽組織の組織像を観察し、病変の細胞レベルでの理解を深める。	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習（事前学習）と 関連レポート（事後学習）	福山 松尾 張	D-4-2)-② D-4-2)-③ D-4-2)-④
	6	<b>進行性病変（II）：</b>  同上（続き）	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習（事前学習）と 関連レポート（事後学習）	福山 松尾 張	D-4-2)-② D-4-2)-③ D-4-2)-④
	7	<b>炎症（I）：</b> 各種炎症の組織像を観察し、病変の細胞レベルでの理解を深める。	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習（事前学習）と 関連レポート（事後学習）	福山 松尾 張	D-4-4)-② D-4-4)-③ D-4-4)-④
	8	<b>炎症（II）：</b>  同上（続き）	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習（事前学習）と 関連レポート（事後学習）	福山 松尾 張	D-4-4)-② D-4-4)-③ D-4-4)-④
	9	<b>上皮性腫瘍（I）：</b> 各種上皮性腫瘍の組織像を観察し、病変の細胞レベルでの理解を深める。	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習（事前学習）と 関連レポート（事後学習）	福山 松尾 張	D-4-5)-② D-4-5)-④ D-4-5)-⑤ D-4-5)-⑥

	10	<b>上皮性腫瘍 (II) :</b>  同上(続き)	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習 (事前学習)と 関連レポート (事後学習)	福山 松尾 張	D-4-5)-② D-4-5)-④ D-4-5)-⑤ D-4-5)-⑥
	11	<b>非上皮性腫瘍 (I) :</b> 各種非上皮性腫瘍の組織像を観察し、病変の細胞レベルでの理解を深める。	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習 (事前学習)と 関連レポート (事後学習)	福山 松尾 張	D-4-5)-② D-4-5)-④ D-4-5)-⑤ D-4-5)-⑥
	12	<b>非上皮性腫瘍 (II) :</b>  同上(続き)	組織所見の説明後、 検鏡、スケッチする。	正常組織の復習 (事前学習)と 関連レポート (事後学習)	福山 松尾 張	D-4-5)-② D-4-5)-④ D-4-5)-⑤ D-4-5)-⑥
	13					
	14					
	15					
6. テキスト 参考文献等	Practice of General & Oral Pathology (当分野作成の実習書。毎回提出するレポート用紙もこの冊子に含まれているので毎回必ず持ってくること) 参考書：図解 病理学・口腔病理学 実習書(医歯薬出版)、組織病理アトラス (文光堂)					
7. 成績評価方法・ 基準	実習レポート(30点満点) 実習試験(70点満点)の配分に換算してそれぞれを評価し、合計100点満点中60点以上の者を合格とする。					
8. 出欠の取扱	毎回出席、レポート提出を原則とする。病欠などで欠席の場合は補講を行う。					
9. 学習相談助言体制(連絡先)	(教員名/メールアドレス/オフィスアワー/研究室) TEL/FAX: 093-582-0828 福山 宏 / <a href="mailto:fukuyama@kyu-dent.ac.jp">fukuyama@kyu-dent.ac.jp</a> /月~金 17:00~19:00/ 9F 口腔病態病理学 教授室 松尾 拓 / <a href="mailto:kou@kyu-dent.ac.jp">kou@kyu-dent.ac.jp</a> /月~金 17:00~19:00/ 9F 口腔病態病理学 准教授室 張 皿 / <a href="mailto:mi-zhang@kyu-dent.ac.jp">mi-zhang@kyu-dent.ac.jp</a> /月~金 17:00~19:00/ 9F 口腔病態病理学オフィス					
10. 授業改革の試み	組織所見が理解し易い実習書や PowerPoint のスライド作りに努める。 教員全員が実習に出て、できるだけ多くの学生の質問に対応できるようにする。 CBT や国家試験問題に対応できるよう、数多くの典型的な病理組織像について解説する。					

1. 授業名 (講義・実習)	栄養と食生活		平成20年度 後期	必修・選択	時間数	開講年次
			水 曜 2時限	必須	30	3年
2. 担当教員	柿木 保明, 辻澤 利行, 尾崎 由衛.					
3. 授業の概要	<p>バランスのとれた食生活(栄養摂取)は, 生命の維持および健康な身体を維持するのに必要である. 偏った栄養摂取は生活習慣病をはじめとする種々の疾患を引き起こす. また, 歯科の二大疾患であるう蝕や歯周病も食生活と密接に関わっている. う蝕は, 乳幼児期・学童期における間食の摂取方法を含めた栄養摂取が影響を及ぼし, 歯周病では, 動脈硬化症や糖尿病と行った全身疾患を含めた生活習慣病と深く関わっている. また, 各ライフステージにおいても栄養摂取上の注意点が異なっている. 特に, 哺乳や離乳食から始まる乳幼児期の栄養摂取は, 口腔機能の発達と密接に関わっているだけでなく, その後の食生活にも大きく影響してくる. また, 高齢期では咀嚼力の低下や嚥下障害のために偏食に陥りやすく, 低栄養状態であることが多い. そのため, 食べることによる生きる意欲を失い, 生活の質(QOL)が低下している高齢者が多いことが社会的に問題となっている. このように食生活(栄養摂取)は, 口腔機能の発達や健康な身体を維持する上で重要である. 本講義では, 生化学と栄養学の知識を基礎として, 適正な栄養摂取を行うために必要な栄養素とその代謝に関する基本的事項および国民栄養の現状とその問題点について講義する. また, 歯科臨床で重要な口腔疾患の予防や要介護高齢者の歯科的問題点と栄養摂取方法について講義する.</p>					
4. 学生の到達目標	<p>「タンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。D-1-1)」  「糖質の構造、機能および代謝を説明できる。D-1-1)-」  「脂質の構造、機能および代謝を説明できる。D-1-1)-」  「生体内におけるエネルギー利用を説明できる。D-1-1)-」  「酵素の働きと主な代謝異常を説明できる。D-1-1)-」  「主な保健医療統計を説明できる。C-4-2)-(1)」  「適切な食事指導(栄養指導)を実施できる。F-1-6)-(2)-」  「生活習慣に関して適切に指導できる。F-1-6)-(2)-」  「口腔と全身の健康の関連を説明できる。C-1」  「主な口腔疾患の予防を説明できる。C-3-2」</p>					
5. 授業方法及び	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	コアカリ項目

内容(計画) 事前・事後 学習の指示	1	健康の維持・増進および疾病予防と栄養の関連について理解する。食物中の栄養素が消化・吸収され「栄養」となる過程を理解する。	講義	食生活と栄養および消化吸収とは	辻澤	D-1-1)
	2	国民栄養の現状と健康日本21について理解する。	講義	日本人の食生活の現状と健康日本21	辻澤	C-4-2)- F-1-6)-(2) )-
	3	食事摂取基準の意味と意義を理解する。	講義	食事摂取基準	辻澤	D-1-1)
	4	炭水化物の種類と栄養的な機能について理解する。	講義	炭水化物の種類と働き	辻澤	D-1-1)
	5	たんぱく質の種類と栄養評価、栄養的意味について理解する。	講義	たんぱく質の種類と働き	辻澤	D-1-1)
	6	脂質の種類と栄養的な機能について理解する。	講義	脂質の種類と働き	辻澤	D-1-1)
	7	ビタミンの種類と栄養的意味について理解する。	講義	ビタミンの種類と働き	辻澤	D-1-1)
	8	無機質の種類と栄養的意味について理解する。	講義	無機質の種類と働き	辻澤	D-1-1)
	9	食生活と歯科疾患との関連を理解する。	講義	食品と栄養のバランス	辻澤	D-1-1) F-1-6)-(2) )-
	10	加齢に伴う摂食機能の変化について理解する。	講義	身体に加齢変化	尾崎	C-1
	11	摂食機能障害者への食事指導	講義	摂食嚥下機能	尾崎	C-1
	12	摂食機能障害者への食事指導	講義	摂食嚥下障害とりハビリ法	尾崎	C-1 F-1-6)-(2) )-
	13	高齢者食・介護食について理解する	講義	高齢者食・介護食	柿木	C-1 F-1-6)-(2) )-
	14	口腔機能と栄養学	講義	口腔機能，食生活	柿木	C-1 F-1-6)-(2) )-
	15	定期試験	筆記試験		柿木、 辻澤、 尾崎	
6.テキスト 参考文献等	講義は，配布プリントを中心に行う。 参考図書として，基礎栄養学（吉田勉ら，医歯薬出版），エッセンシャル基礎栄養学（中屋豊ら，医歯薬出版），日本人の食事摂取基準 2005 年版（厚生労働省策定，第一出版），平成 16 年国民健康・栄養調査報告（健康・栄養情報研究会編，第一出版）をあげておく。					
7.成績評価 方法・基準	筆記試験が 60 点以上のものを合格とする。					

8. 出欠の取扱	学教務システムを用いて行なう。すなわち、担当教員が講義室に入室した後に、読み取りボードにICカードをかざす。10時45分までに読み終えたものを出席とする。ただし、それ以降は、講義の受講は認めるが欠席扱いとする。欠席時間数が講義総時間数の1/3以上の場合は受験失格とする。				
9. 学習相談 助言体制 (連絡先)	<p>柿木 保明 (摂食機能リハビリテーション学分野)          質問は、e-mailでも受け付ける。          授業外でも、曜日を決めて、診療時間後に質問を受け付ける。  <a href="mailto:kakinoki@kyu-dent.ac.jp">kakinoki@kyu-dent.ac.jp</a></p> <p>辻澤 利行 (感染分子生物学分野)          月～金曜日、随時受け付ける。          内線 8113、<a href="mailto:t-toshi@kyu-dent.ac.jp">t-toshi@kyu-dent.ac.jp</a></p> <p>尾崎 由衛 (摂食機能リハビリテーション学分野)          質問は、e-mailでも受け付ける。          授業外でも、曜日を決めて、診療時間後に質問を受け付ける。  <a href="mailto:y-ozaki@kyu-dent.ac.jp">y-ozaki@kyu-dent.ac.jp</a></p>				
10. 授業改革の試み	<p>講義は、視覚情報を示すことで理解できるように心がけている。また、講義の開始時に前回の講義内容に関する練習問題を解かせることで学生の復習を促し、学習内容の理解度を深めている。講義資料は、学生が学習のキーワードを書き込みやすいように工夫している。</p> <p>講義終了時に行なうアンケートや学生の反応を見ながら、講義スライドや講義資料の改善を行なっている。</p>				
1. 授業名 (講義)	部分欠損補綴治療学 (部分床義歯)	平成20年度 後期 火曜 3, 4時限	必修・選択 必修	時間数 30	開講年次 3
2. 担当教員	有田正博、八木まゆみ、松木貴彦、中村恵子、大学院生				
3. 授業の概要	<p>歯列の一部欠損に対する修復の臨床的意義と方法について、以下の3つをアウトカムとして、理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部分欠損の問題と治療のオプションを提示できる。</li> <li>2. 部分床義歯の構造設計を立案・図説できる。</li> <li>3. 部分欠損患者に対する治療方法を説明できる。</li> </ol>				
4. 学生の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 可撤性義歯の目的と意義および具備条件を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>2. 即時義歯の目的と意義を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>3. 治療用義歯の目的と意義を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>4. 可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>5. 可撤性義歯の支持機構、把持機構、維持機構を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>6. 可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>7. 可撤性義歯の構成要素を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>8. 咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>9. 下顎運動の記録法を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>10. 可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき、各基本的操作を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>11. 研究模型と作業模型の製作方法を説明できる。F-3-4-(1)-</li> <li>12. 可撤性義歯の製作過程を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>13. 可撤性義歯の設計原理を理解し、口腔内診察、検査、診断模型およびエックス線写真等により適切に設計を行うことができる。F-3-4-(3)-</li> <li>14. 可撤性義歯の調整、リライニング、リベ・スおよび修理を説明できる。F-3-4-(3)-</li> <li>15. 可撤性義歯装着後における定期検診の重要性を説明し、指導できる。F-3-4-(3)-</li> <li>16. 欠損補綴の治療方針の説明ができる。4・4・3 (OSCE)</li> </ol>				

5. 授業方法 および 内容（計 画） 事前・事後学 習の指示	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習 （学習課題）	担当	コアカリ項 目
	1	講義の概要（年間授業計画の説明・評価基準などについて）の説明 アイスブレイキング・実習器具の確認・模型の確認・シナリオ（カルテ）作成	講義 実習	復習：3年次生前期までに学習した基本的知識の振り返りを行うこと 予習レポート：部分床義歯とブリッジの相違点、部分欠損の分類	有田 八木 松木 中村 大学院生	
	2	部分欠損の問題点と補綴物装着の意義、欠損の分類 アルジネート印象採得・模型の作製（1：設計と咬合床、2：個人トレー）	レポート（予習）プレ試験（レポートの内容に関するもの） 講義、実習	予習レポート：クラスプの種類とその特徴・アルジネート印象材の特性	有田 八木 松木 中村 大学院生	F-3-4-(3)- F-3-4-(3)- F-3-4-(3)-
	3	部分床義歯の構成要素を理解する（維持装置） アルジネート印象採得・模型の作製、模型の分析・類似設計を探す。	レポート（予習） プレ試験 講義 実習	予習レポート：連結装置の種類とその特徴、義歯床の役割、サベヤーについて	有田 八木 松木 中村 大学院生	F-3-4-(3)- F-3-4-(3)- F-3-4-(3)- F-3-4-(3)-
	4	部分床義歯の構成要素を理解する（連結装置、義歯床、人工歯） サベイングと設計原案の作成	レポート（予習） プレ試験 講義 実習	予習レポート：部分床義歯の設計・製作手順	有田 八木 松木 中村 大学院生	F-3-4-(3)- F-3-4-(3)- F-3-4-(3)-
	5	中間試験 設計の原則、治療の流れ サベイングと設計原案の作成、 模型への外形線描記	中間試験 レポート（予習） 講義 実習	予習レポート：部分床義歯の印象採得法	有田 八木 松木 中村 大学院生	F-3-4-(3)- F-3-4-(3)- F-3-4-(3)-

6	部分床義歯の印象採得法 設計方針のグループディスカ ッション	レポート（予 習） プレ試験 講義 実習	予習レポート：部 分床義歯の咬合採 得法	有田 八木 松木 中村 大学 院生	F-3-4-(3)- F-3-4-(3)-
7	部分床義歯の咬合採得法 個人トレーの製作（図示）	レポート（予 習） プレ試験 講義 実習	予習レポート：咬 合器の種類、下顎 の基本運動（切歯 路と顎路）	有田 八木 松木 中村 大学 院生	F-3-4-(3)- F-3-4-(3) F-3-4-(3)-
8	咬合器と顎運動 個人トレーの製作	レポート（予 習） プレ試験 講義 実習	予習レポート：金 属床義歯の特徴、 メタルフレームの 製作方法	有田 八木 松木 中村 大学 院生	F-3-4-(3)-
9	メタルフレームの製作方法、人 工歯排列、蝟義歯試適 咬合床の製作（図示）	レポート（予 習） プレ試験 講義 実習	予習レポート：ア クリルレジンの特 徴、義歯床の重合 法、蝟義歯試適時 の注意点	有田 八木 松木 中村 大学 院生	F-3-4-(3)- F-3-4-(3)-
10	中間試験 義歯の重合 咬合床の製作	中間試験 レポート（予 習） 講義 実習	予習レポート：義 歯装着時の注意点	有田 八木 松木 中村 大学 院生	F-3-4-(3)- F-3-4-(3)-
11	義歯の完成と義歯の装着 クラスプの屈曲と口蓋床の製 作	レポート（予 習） プレ試験 講義 実習	予習レポート：義 歯装着後のトラブ ルとその対処	有田 八木 松木 中村 大学 院生	F-3-4-(3)- F-3-4-(3)-

	12	部分床義歯の予後 口蓋床の完成と装着	レポート（予 習） プレ試験 講義 実習	予習レポート：医 療面接、治療の説 明・指導の基本	有田 八木 松木 中村 大学 院生	F-3-4-(3)-  F-3-4-(3)-
	13	部分欠損患者に対する治療説 明の基本、オスキーについての 説明、評価シートの作成方法 部分欠損患者に対する治療説 明 ミニオスキー	レポート（予 習） 講義 実習（ロールプ レー）	予習レポートなし	有田 八木 松木 中村 大学 院生	F-3-4-(3)-
	14	部分欠損患者に対する治療説 明 ミニオスキー	レポート（予 習） 実習（ロールプ レー）	予習レポートなし	有田 八木 松木 中村 大学 院生	F-3-4-(3)-
	15					
6. テキスト 参考文献等	顎口腔欠損再構築学分野：欠損補綴学（オリジナルテキスト）					
7. 成績評価 方法・基準	プレテスト（20点×9回）自主学習（10点×12回）中間テスト（100点×2回）ポートフォ リオ評価（200点満点）実習製作物評価（200点満点）本試験（100点×1回）の合計点（1000 点）学会・セミナー等出席（20点）、欠席1回-10点、授業での発言5点、600点以上を合格点 とする。不合格者は、再度ポートフォリオ（自主学習記録）と追試験（9:1）で再評価する。					
8. 出欠の取 扱						
9. 学習相談 助言体制 （連絡先）	有田正博 093-582-1131（内 2122） E-mail <a href="mailto:m-arita@kyu-dent.ac.jp">m-arita@kyu-dent.ac.jp</a> スチューデントアワー（火曜日 17：00～18：00）					

10. 授業改革の試み	予習レポートとそれについてのプレ試験を実施することで、学習（講義と実習）内容に対する理解力と習熟度を高める。実習は、治療方針の立案と臨床手技に必要な実習を行うことで、知識と技能の統合を図る。さらに、自らが立案した設計・治療方針について、ミニオスキーを行うことで、説明・指導における態度と技能（コミュニケーションスキル）の向上を図る。以上は、グループ学習による相互学習効果を最大限利用し、合わせて教員および大学院生による形成的評価を行う。学習の評価は、年度末試験（MCQ形式）の単独では行わず、学習のプロセスやプロダクトなどを総合評価する。これによって学生の授業への出席および学習への参加意欲を高める。
-------------	--

1. 授業名 (講義)	歯周病学	平成20年度 後期 月曜 1, 2 時限	必修・選択 必須	時間数 60	開講年次 3年次
2. 担当教員	横田 誠 , 豊島 邦昭 , 西原 達次 , 福山 宏 , 稲永 清敏 , 自見 英治郎 , 森本 泰宏 , 高田 豊 , 非常勤講師 前田 勝正 (九州大学院) , 和泉 雄一 (医歯大院) , 牛島 進 (開業歯科医)				
3. 授業の概要	歯周病学は 8020 を支える歯科の臨床分野である。壮年期以降の歯の喪失の原因の大半を占める歯周病は、歯科的に種々の障害の最も大きな誘引となっている。また、未曾有の高齢化社会における歯周病の蔓延は、生活習慣病の引き金として内科学的な見地からも捉えられている。歯周病学は、解剖、組織学、病理学、機能学、原因論、リスク因子としては感染論、免疫学、遺伝学など歯科基礎医学の大きなテーマの一である。また歯周病学の診断には、さまざまな分野との情報交換を必要としており歯科的、医科的総合的教育が行われる。臨床的には、咬合終末を担う歯根膜機能を扱うため、他の臨床分野とも密接な関連を持つ領域である。歯科医学のコアとなる本講義は、歯周疾患発症メカニズムを体系的に学習し、臨床との関連を包括的に理解する場となっている。このように歯周病学の講義は、教室を“先生と学生による学びの共同体”と位置づけ、興味、学習、記憶をベースに歯科医学の根幹を担う。歯周病学の基礎と臨床を包括的に学ぶ場となる。				
4. 学生の到達目標	1. 問題発見・解決能力を身に付ける。B-1 2. 歯周疾患を説明できる。F-3-3)・(3)・ 3. 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。F-3-1) 4. 歯周疾患の病因と病態を説明できる。F-3-2) 5. 病因としての口腔細菌、歯垢、歯石を説明できる。F-3-2)・ 6. 歯周疾患の問診、検査法と診断法を説明できる。F-1-1)・、F-3-3)-(3)- 7. 治療方針を説明できる。F-3-3)-(3)- B-2-3)- 8. 基本治療の役割を説明できる。F-3-3)-(3)- 9. 歯周外科手術の種類と適応症を説明出来る。F-3-3)-(3)- 10. 歯周治療後の組織治癒機転と予後を説明できる。F-3-3)-(3)- 11. 歯周疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。F-3-3)-(3)- 12. 歯周外科と歯周組織再生法の意義を説明できる。F-3-3)(3)- 13. 歯周疾患と生活習慣病、全身疾患との関わりについて説明できる。F-1-1)- 14. 歯周補綴学、矯正学、インプラント治療との関連を説明できる。 16. 急性疾患モデルと慢性疾患モデルにおける对患者関係の重要性を説明できる。F-1-1)- 、 17. 心理テストを説明出来る。F-4-5)-				

5. 授業方法および 内容(計画)事前・事後学習の 指示	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	歯周病学概論	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション		横田
	2	歯周組織を中心とした臨床解剖 (歯の萌出)	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイント資料 翌週小テストの準備	小林
	3	組織学的にみた歯周組織の発生と構造	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイント資料 翌週小テストの準備	豊島
	4	歯周病の原因としてのプラーク	スライド 資料	口腔微生物学の復習	西原
	5	特別講義(細菌と歯周病治療)	スライド 資料		前田(九大)
	6	歯周病の病理	スライド 資料	口腔病理学の復習	福山
	7	歯周病の診査・診断・分類について	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイント資料	横田
	8	口腔内の粘膜疾患	パワーポイント、 資料		和泉(医歯大院)
	9	歯周組織の生理学(血流、唾液、 歯根膜反射、)	パワーポイント、 資料	口腔生理の復習(自立神経機能、反射、唾液)	稲永
	10	病的歯周組織内の生化学的 イベント	パワーポイント、 資料	口腔生化学復習	自見
	11	歯周病の診査1 歯周病のレントゲンの病態像 について	パワーポイント、 資料	事前配布資料の予習	森本

12	歯周病の診査 2 歯周病の臨床的診査法 データの解釈	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイ ント資料 翌週小テス トの準備	横田
13	歯周治療の進め方・治療計画	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイ ント資料 翌週小テス トの準備	横田
14	基本治療 ブラークコントロール	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイ ント資料 翌週小テス トの準備	横田
15	基本治療 2 スクリーング・ルートプレーニング	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイ ント資料 翌週小テス トの準備	横田
16	基本治療 3 咬合調整法 1 咬合の診査法 中心咬合位 中心位 側方運動時	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイ ント資料 翌週小テス トの準備	横田
17	基本治療 3 ( 続き ) 咬合調整法 2. 歯根膜の機能変 化について	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイ ント資料 翌週小テス トの準備	横田
18	基本治療 4 暫間固定法	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイ ント資料 翌週小テス トの準備	横田
19	基本治療 5 習癖 ブラキシズム 口呼吸の臨床症状	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポイ ント資料 翌週小テス トの準備	横田

20	基本治療 M T M 治療の効果判定と治療計画の修正	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポ イント資料 翌週小テス トの準備	横田
21	復習と形成テスト 3 歯周外科 歯周外科の歴史と歯周外科の 種類	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポ イント資料 翌週小テス トの準備	横田
22	歯周外科 P -Cur, GE, ENAP, FOP	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポ イント資料 翌週小テス トの準備	横田
23	歯周外科 (再生療法)	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポ イント資料 翌週小テス トの準備	横田
24	歯周組織の治癒	スライド 資料	口腔病理学 の復習	福山
25	分岐部病変の分類と治療法	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポ イント資料 翌週小テス トの準備	横田
26	歯内・歯周病変			外来講師牛 島
27	歯周補綴 インプラント	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポ イント資料 翌週小テス トの準備	横田
28	メンテナンス 非外科治療と外科治療の比較 メンテナンスの重要性 P M T C	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポ イント資料 翌週小テス トの準備	横田

	29	歯科心身医学的患者対応法	パワーポイント、小テスト コーチングによるフリー ディスカッション	パワーポ イント資料 翌週小テス トの準備	横田
	30	全身疾患と歯周病	内科で作成した資料		高田
6. テキスト 参考文献等	各分野の配布資料 「歯周病学」永末書店、1996、 「臨床歯周病学」リンデ				
7. 成績評価 方法・基準	全講義終了後、統合教育科目と別々に筆記試験を行い形成的評価を行う。それぞれ100点満点とし、平均が60点を合格。再試験は1回のみ。				
8. 出欠の取扱	20分以降の遅刻は欠席とする。				
9. 学習相談 助言体制 (連絡先)	横田 内線 2031 時間帯は特に指定しないが、病院研究室(10階)を訪問すること。ただし不在の場合も多いので、学生が必要と認めるなら予め電話などで予約すること。				
10. 授業改革の 試み	本講義の特徴は、教室を“学びの共同体”と位置づけ、興味、学習、記憶、満足の結果として上記の項目を学ぶ。その本授業は、学習計画に則つる予習型PBLとしてのケーススタディーを導入する。				

1. 授業名 (実習)	歯周病学	平成20年度 後期	必修・選択	時間数	開講年次
		月曜 3,4時限	必須	60	3年次
2. 担当教員	横田 誠				
3. 授業の概要	本講義の特徴は、教室を“先生と学生による学びの共同体”と位置づけ、興味、学習、記憶、各分野について下記の内容について統合教育を包括的に身につける。 1. 歯と歯周組織の常態像と病態像の関連性を理解する。 2. 歯周疾患発症メカニズムを体系的に学習する。 3. 歯周治療理論を理解する。 4. 歯周組織再生療法について理解する。 5. 慢性疾患治療としての心理学・対人関係を学ぶ。				

4. 学生の到達目標	1. 問題発見・解決能力を身に付ける。B-1 2. 歯周疾患を説明できる。F-3-3)-(3)- 3. 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。F-3-1) 4. 歯周疾患の病因と病態を説明できる。F-3-2) 5. 病因としての口腔細菌、歯垢、歯石を説明できる。F-3-2)-、 6. 歯周疾患の問診、検査法と診断法を説明できる。F-1-1)-、F-3-3)-(3)- 7. 治療方針を説明できる。F-3-3)-(3)- B-2-3)- 8. 基本治療の役割を説明できる。F-3-3)-(3)- 9. 歯周外科手術の種類と適応症を説明出来る。F-3-3)-(3)- 10. 歯周治療後の組織治癒機転と予後を説明できる。F-3-3)-(3)- 11. 歯周疾患の急性症状の診断と処置方法を説明できる。F-3-3)-(3)- 12. 歯周外科と歯周組織再生法の意義を説明できる。F-3-3)-(3)- 13. 歯周疾患と生活習慣病、全身疾患との関わりについて説明できる。F-1-1)- 14. 歯周補綴学、矯正学、インプラント治療との関連を説明できる。 16. 急性疾患モデルと慢性疾患モデルにおける对患者関係の重要性を説明できる。F-1-1)- 17. 心理テストを説明出来る。F-4-5)-					
5. 授業方法 および 内容(計画) 事前・事後 学習の指示	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	コアカリ項目
	1	初診患者の医療面接 (慢性症状)	相互実習	医療面接法	芳賀	F-3-3)-(3) B-2-1) B-2-2)
	2	歯周診査法	相互実習	歯周診査法	笠井	F-3-3)-(3)
	3	プラークコントロール ブラッシング指導	相互実習	歯垢染色法 歯垢の評価法 ブラッシング法 隣接面清掃法	笠井	F-3-3)-(3)
	4	スケーリング 抜去歯のス ケーリングルートプレーニ ング	抜去歯の スケーリング	歯垢の付着様式 歯面沈着物の分類 グレーシー-スケーラーについて	村岡	F-3-3)-(3)
	5	スケーリング 模型実習		ポジショニングについ て スケーラーの部位特異 性	村岡	F-3-3)-(3)
	6	歯周病症状の説明 (歯周病症状の説明)	相互実習	医療面接法	芳賀	B-2-1) B-2-2)
	7	治療計画 資料により治療 計画の立案	資料によ り治療計 画の立案	治療の進め方	芳賀	F-3-3)-(3)
	8	歯周外科手術歯肉切除術	模型実習	歯周外科手術 G E	久保田	F-3-3)-(3)-

	9	歯周外科手術 Flap 手術	模型実習	歯周外科手術 F O P , M G S	久保田	F-3-3-(3)-
	10	S G D (スモールグループ ディスカッション) 歯周外科と非外科について 新付着と再付着について	スモール グループ ディスカ ッション	歯周保存療法について 新付着とは 再付着とは	笠井 村岡 久 保田 芳賀 横田	F-3-3)-(3)
	11	治療計画 資料により治 療計画の立案	資料によ り治療計 画の立案	治療の進め方	芳賀	F-3-3)-(3)
	12	暫間固定・咬合調整法固定 について ・咬合調整法	模型実習	動揺歯の固定法につい て・咬合調整法	芳賀	F-3-3)-(3)
	13	ナイトガード作製	模型実習	ナイトガード作製法	芳賀	F-3-3)-(3)
	14	特別講義(臨床家による歯 周治療)	スライド 供覧		外来講師 船越	F-3-3)-(3)
	15	実習試験( O S C E 形式)	O S C E 形式によ る実習試 験		芳賀 久 保田 村岡 笠井 横田	
6.テキスト 参考文献等	「歯周病学」永末書店、1996 「臨床歯周病学」リンデ					
7.成績評価 方法・基準	全講義終了後、筆記試験を行い形成的評価を行う。100点満点、60点合格。 再試験は1回のみ。					
8.出欠の取 扱						
9.学習相談 助言体制	班別のライターに相談すること。 (連絡先)医局 内線 2033					
10.授業改革 の試み	本講義の特徴は、教室を“学びの共同体”と位置づけ、興味、学習、記憶、満足の結果として上 記の項目を学部。その本授業は、学習計画に則つたる予習型 P B L としてのケーススタディーを導入する。					
1. 授業名 講義・実習	口腔機能再建治療学 (講義、実習)	平成20年度 後期 木曜 4時限、金曜終日	必修・選択 必修	時間数 160	開講年次 3年次	
2. 担当教員	細川隆司、村上繁樹、小城辰郎、波多野圭紀、寺田征彦、正木千尋 小園凱夫、柿川 宏、田島清司、永松有紀、非常勤講師					

3. 授業の概要	<p>口腔機能再建治療学は、生体材料を用いて歯冠歯質の欠損および歯の欠如、咬合の異常などに起因する顎口腔系機能の低下、形態変化および審美障害などの回復、改善ならびに咬合の保全を計ることを通じて患者の健康を回復することをその目的とする。補綴処置は歯科医療における終末処置として重要な技術であることは言うまでもない。しかし、その臨床応用にあたっては、単に技工技術や材料学的側面に留まることなく、対象としての生体材料と生体（患者）に関する深い基礎的な知識が要求される。顎口腔系の機能回復は、あくまで全身の中でとらえなければならない。そこで、口腔機能再建治療学では、コアカリキュラム・OSCE 課題に準じた到達目標を含め、生体材料の取り扱いに配慮しながら、歯質欠損、歯牙欠損に関する歯冠修復、冠橋義歯による修復治療について、講義と実習を行う。</p>
4. 学生の到達目標	<p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成形を行って使用する歯科材料の種類と特性を理解し、これらの歯科材料の基本的成形方法を習得する。</li> <li>・ 歯列の一部欠損に起因した顎口腔の機能低下に対し、生体材料を用いて口腔の機能回復を図る治療について、診断、治療、治療評価、術後管理などについてコアカリキュラムの内容を網羅しつつ CBT および OSCE の基本的な知識と技能を身に付ける</li> </ul> <p>到達目標</p> <p>コアカリキュラム</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 歯科用合金の成形法(加工、鋳造およびろう付け)を説明できる。E-2-</li> <li>2) 陶材の種類と組成、焼成法、用途および特性を説明できる。E-2-</li> <li>3) 硬質レジンの種類と組成、焼成法、用途および特性を説明できる。E-2-</li> <li>4) 橋義歯の意義と具備条件を説明できる。F-2-(4)-2)-</li> <li>5) 橋義歯の種類と特徴を説明できる。F-2-(4)-2)-</li> <li>6) 支台装置とポンティックの種類と適応、特徴及び製作法を説明できる。F-2-(4)-2)-</li> <li>7) 橋義歯における支台歯形成の方法を説明できる。F-2-(4)-2)-</li> <li>8) リテーナーの意義を説明できる。F-2-(4)-2)-</li> <li>9) 橋義歯の製作に必要な材料の特性と各基本的操作を説明できる。F-2-(4)-2)-</li> <li>10) 橋義歯製作のための咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。F-2-(4)-2)-</li> <li>11) 橋義歯の維持管理の目的と方法を説明できる。F-2-(4)-2)-</li> <li>12) フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明し、調節性咬合器の基本的操作ができる。F-2-(4)-2)-</li> <li>13) 歯の欠損に伴う歯・口腔・顎顔面領域の変化に対して必要な診察・検査並びに診断ができる。F-2-(4)-2)-</li> <li>14) 橋義歯の設計を適切にできる。F-2-(4)-2)-</li> <li>15) 支台装置の製作過程における基本的手技ができる。F-2-(4)-2)-</li> <li>16) 橋義歯の装着後における定期健診の重要性を説明し、指導できる。F-2-(4)-2)-</li> <li>17) デンタルインプラントの種類と特性を説明できる。</li> </ol>

OSCE ・支台歯形成 1) 患者にこれから行うことを伝えることができる。5-3-1) 2) 処置に応じたポジショニングができる。5-3-2) 3) 形成する歯を正しく選択できる。5-3-3) 4) ハンドピースに操作が適切にできる。5-3-4) 5) 歯髄保護に配慮する。5-3-5) 6) 咬合面の形成ができる。5-3-6) 7) 清潔に配慮した操作ができる。5-3-7) 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作ができる。5-3-8) 9) 安全性に配慮した操作ができる。5-3-9) ・テンポラリークラウンの作成 1) 患者にこれから行うことを伝えることができる。5-4-1) 2) 処置に応じたポジショニングができる。5-4-2) 3) 適切な既製樹脂冠を選択できる。5-4-3) 4) 即時重合レジンの操作が適切にできる。5-4-4) 5) 辺縁のバリを適切に削除することができる。5-4-5) 6) 清潔に配慮した操作ができる。5-4-6) 7) 患者の痛みや不快感に配慮した操作ができる。5-4-7) 8) 安全性に配慮した操作ができる。5-4-8)						
5. 授業方法 および 内容(計画) 事前・事後 学習の指示	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	コアカリ項目
	1	総論：欠損補綴学1(クラウン・ブリッジ補綴学)の意義 病因、病態と主要徴候	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
	2	クラウンブリッジの要件、クラウンの種類、ブリッジの種類と構成	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
	3	生活歯の支台歯形成：上顎右側中切歯の前装冠形成1	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木 ほか 全員	F-2-(4)-2)-
	4	診察と診断、治療計画を左右する 因子・EBM と NBM	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
	5	ブリッジの設計、クラウンブリッジの経過	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-

6	生活歯の支台歯形成：上顎右側中切歯の前装冠形成 2 / プロビジョナル・レストレーション	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木ほか 全員	F-2-(4)-2)-
7	症例検討：問題点の抽出	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
8	インフォームドコンセント、前処置	講義	配布資料による	小城	F-2-(4)-2)-
9	生活歯の支台歯形成：ブリッジ・上顎左側第 2 小臼歯・第 2 大臼歯の形成 1	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木ほか 全員	F-2-(4)-2)-
10	症例検討：EBM の実践	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
11	支台歯形成	講義	配布資料による	小城	F-2-(4)-2)-
12	生活歯の支台歯形成：ブリッジ・上顎左側第 2 小臼歯・第 2 大臼歯の形成 2	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木ほか 全員	F-2-(4)-2)-
13	支台築造	講義	配布資料による	小城	F-2-(4)-2)-
14	既製トレーを使った寒天・アルジネート連合印象，石膏注入，硬石膏模型作製まで	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木ほか 全員	F-2-(4)-2)-
15	口腔インプラントの歴史	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
16	印象採得	講義	配布資料による	小城	F-2-(4)-2)-
17	失活歯（下顎左側第 2 小臼歯・根充後）に対する支台築造：概形成，コアの形成	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木ほか 全員	F-2-(4)-2)-
18	口腔インプラントの種類	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
19	テンポラリークラウン、咬合採得	講義	配布資料による	小城	F-2-(4)-2)-
20	失活歯（下顎左側第 2 小臼歯・根充後）に対する支台築造：印象採得，石膏注入，作業模型作製	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木ほか 全員	F-2-(4)-2)-
21	基本的な術式	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
22	治療計画 1	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-

23	歯科鑄造(1)【生体材料学】・歯科鑄造の原理・ワックスパターンの作製	講義	鑄造による成形法の利点、欠点	小園	F-2-(4)-2)-
24	鑄造用埋没材の諸性質におよぼす諸因子の影響 鑄造体の精度と適合性 実習実技試験(OSCE形式)(支台歯形成) 実習実技試験(OSCE形式)(テンポラリークラウン)	実習(4班に分かれて各週1テーマずつ実習を行う)	配布資料・実習マニュアルによる	全教員	E-2-F-2-(4)-2)-
25	治療計画2	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
26	歯科鑄造(2)【生体材料学】・埋没材の種類と組成、硬化の仕組み、性質	講義	・埋没材の役割 ・埋没材の種類と使い分け	小園	E-2-
27	鑄造用埋没材の諸性質におよぼす諸因子の影響 鑄造体の精度と適合性 実習実技試験(OSCE形式)(支台歯形成) 実習実技試験(OSCE形式)(テンポラリークラウン)	実習(4班に分かれて各週1テーマずつ実習を行う)	配布資料・実習マニュアルによる	全教員	E-2-F-2-(4)-2)-
28	治療計画3	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
29	歯科鑄造(3)【生体材料学】・埋没材の取り扱い、埋没法	講義	鑄型作製のテクニック	小園	E-2-
30	鑄造用埋没材の諸性質におよぼす諸因子の影響 鑄造体の精度と適合性 実習実技試験(OSCE形式)(支台歯形成) 実習実技試験(OSCE形式)(テンポラリークラウン)	実習(4班に分かれて各週1テーマずつ実習を行う)	配布資料・実習マニュアルによる	全教員	E-2-F-2-(4)-2)-
31	上部構造の作製	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-

32	歯科鑄造(4)【生体材料学】・鑄型の加熱 ・合金の溶融・鑄造法	講義	・鑄型加熱の意義 ・合金溶融熱源 ・鑄造機の種類と特徴	小園	E-2-
33	鑄造用埋没材の諸性質におよぼす諸因子の影響 鑄造体の精度と適合性 実習実技試験(OSCE形式)(支台歯形成) 実習実技試験(OSCE形式)(テンポラリークラウン)	実習(4班に分かれて各週1テーマずつ実習を行う)	配布資料・実習マニュアルによる	全教員	E-2- F-2-(4)-2)-
34	術後管理	講義	・鑄造機の種類と特徴	細川	F-2-(4)-2)-
35	技工操作： 作業模型の製作・ワックスパターン形成	講義	配布資料による	村上	F-2-(4)-2)-
36	失活歯(下顎左側第2小白歯・根充後)に対する支台築造：ワックスパターン形成，埋没	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木ほか 全員	F-2-(4)-2)-
37	歯科鑄造(5)【生体材料学】・鑄造欠陥の種類と原因、対策	講義	鑄造欠陥の原因と対策	小園	E-2-
38	埋没・鑄造・熱処理・研磨	講義	配布資料による	村上	F-2-(4)-2)-
39	失活歯(下顎左側第2小白歯・根充後)に対する支台築造：鑄造、試適、研磨、提出	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木ほか 全員	F-2-(4)-2)-
40	歯科ろう付け(生体材料)	講義	・ろうの種類と組成 ・ろう付け法の種類と方法 ・フラックスの効果	田島	E-2-
41	連結法、様々な補綴装置の製作法(陶材焼付前装冠、レジン前装鑄造冠)	講義	配布資料による	村上	F-2-(4)-2)-
42	全部鑄造冠装着・咬合調整	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木ほか 全員	F-2-(4)-2)-

	43	硬質レジン（生体材料）	講義	・多官能性モノマーの化学 ・成分 ・取り扱い上の注意 ・性質の比較	柿川	E-2-
	44	様々な補綴装置の製法（オールセラミック修復、接着ブリッジ）	講義	配布資料による	村上	F-2-(4)-2)-
	45	全部鑄造冠装着・咬合調整	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木 全員	F-2-(4)-2)-
	46	陶材学（生体材料）	講義	陶材の成分と特徴、焼成法	小園	E-2-
	47	臨床操作 2： 口腔内試適と装着、術後管理、装着後に発生する問題とその対応	講義	配布資料による	細川	F-2-(4)-2)-
	48	全体のまとめ・実習試験	講義・実習	配布資料・実習マニュアルによる	正木 全員	F-2-(4)-2)-
6. テキスト 参考文献 等	1. 参考書 歯科理工学入門 小園凱夫編 学建書院 2. 参考書 要説歯科材料学 平澤 忠監訳 医歯薬出版 3. 参考書 現代歯科理工学 平澤 忠・他編 医歯薬出版 4. 教科書 クラウンブリッジ補綴学 医歯薬出版 その他必要に応じてプリント資料を配布する。					
7. 成績評価 方法・基準	授業への参加、実習レポート、講義レポート、期末試験を総合的に評価する。到達目標の 60%に満たないと判断された場合、不合格となる。					
8. 出欠取扱						
9. 学習相談 助言体制 (連絡先)	小園: オフィスアワー 毎日 12:00 - 13:00、月・木・金 16:30 - 18:00 生体材料学分野(内線 5460、5462) <a href="mailto:y-kozono@kyu-dent.ac.jp">y-kozono@kyu-dent.ac.jp</a> 柿川: オフィスアワー 月・水・木 12:00 - 13:00、月・木・金 16:30 - 18:00 生体材料学分野(内線 5462&5461) <a href="mailto:h-kaki@kyu-dent.ac.jp">h-kaki@kyu-dent.ac.jp</a> 田島: オフィスアワー 毎日 12:00 - 13:00 生体材料学分野(内線 5462) <a href="mailto:tajima@kyu-dent.ac.jp">tajima@kyu-dent.ac.jp</a> 永松: オフィスアワー 月・水・木 16:30 - 18:00 生体材料学分野(内線 5462) <a href="mailto:yuki-naga@kyu-dent.ac.jp">yuki-naga@kyu-dent.ac.jp</a> 口腔再建リハビリテーション学分野においては、細川、村上、小城、波多野、正木はメール(アドレスは、大学ホームページ記載)にて質問を受けるほか、別途掲示されるオフィスアワー(スチューデントアワー)においても質問・相談を受ける。					

10.授業改革 試み	従来の補綴学と生体材料学の統合により、無駄な重複をなくし、基礎と臨床の有機的連携を図る。				
1.授業名 (講義・実習)	医学英語	平成20年度 後期 木曜 1時限	必修・選択 必修	時間数 20	開講年次 3年
2.担当教員	瀬田祐司、豊島邦昭、松尾 拡、栗野秀慈、片岡真司				
3.授業の概要	歯科医師・研究者にとって必要な最新情報は英語で記載されていることが多い。自分にとって必要な情報を検索し、その情報を得るためにはどの様にしたらよいのかをグループで実際に行ってもらおう。また、留学経験のある教員に海外での研究生活についての話題を提供してもらい、将来の選択肢の1つとしての研究者についての理解を深める				
4.学生の到達目標	歯科医師・研究者として英語が必要な理由について理解できるようになる 英語医学論文を検索し、自分で必要な論文を見つけられるようになる。 英語医学論文を自分で読み進めるようになる。 海外での研究生活の実際と、その意義を理解する。				
5.授業方法及び 内容(計画)事前・ 事後学習の指示	回	学習内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	歯科医師・研究者にとっての英語の必要性	講義及びディスカッション	なし	瀬田
	2	英語医学論文の検索法	講義及びディスカッション	課題提出	瀬田
	3	英語医学論文の構成1	講義及びディスカッション	課題提出	瀬田
	4	英語医学論文の構成2	講義及びディスカッション	課題提出	瀬田
	5	英語医学論文の構成3	講義及びディスカッション	課題提出	瀬田
	6	海外留学のための書類作成	講義及びディスカッション	課題提出	瀬田
	7	海外留学生活	講義	レポート提出	豊島
	8	海外留学生活	講義	レポート提出	松尾
	9	海外留学生活	講義	レポート提出	栗野
	10	海外留学生活	講義	レポート提出	片岡
6.テキスト参考文献					
7.成績評価基準	レポート(50%)、定期試験(50%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。				
8.出欠の取扱	授業開始20分までを出席と認め、それ以降は欠席とする。				

9. 学習相談助言体制(連絡先)	瀬田祐司:毎週水曜日午後4時から6時までをオフィスアワーとする。E-mail: <a href="mailto:yujiseta@kyu-dent.ac.jp">yujiseta@kyu-dent.ac.jp</a>
10.授業改革の試み	グループ、個人に課題を与え、自分自身で作業することによって、学生の興味を引き出す努力をする。